キャラクター名
愛賀美　煌（めでがみ　きらめ）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ハヌマーン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男性
覚醒	感染	衝動	嫌悪	初期侵食率	34　%
出自	義両親　伯父夫妻	経験	大事故　魔法少女のお姉さん	邂逅	借り　加納美鳥

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	2	0	3	3		8
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	29
行動値	17
(非装備時)	17
戦闘移動	22
全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	2		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：ダンス	4		芸術：歌唱	5		知識：			情報：ファンサ	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
フォールンライフル	射撃	8r+4		10		秘密兵器

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ステージ衣装		1			アイドル技能：歌唱の判定ダイス+1

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	
コネ:噂好きの友人	
サーチレーダー	
風が凪ぐ	
ステージ衣装	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
秘密兵器:フォールンライフル	P	N		
姉　星海	P　尽力	N　不安		
イルカルラ	P 連帯感	N 劣等感		
ヒーリング□ブルー	P　憧憬	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセ:エグザイル	3	2	メジャー					
効果：@7								
吠え猛る爪	5	2	メジャー	武器		射撃		
効果：装甲値無視。								
吸収	2	2	メジャー	武器		射撃		
効果：1点でもダメージを与えた場合、ラウンド中対象が行うあらゆる判定ダイス-LV個								
オールレンジ	5	2	メジャー	武器		射撃		
効果：判定ダイス+LV個。								
死神の針	5	3	メジャー	視界	単体	射撃		
効果 :攻撃力:+[LV×2]の射撃攻撃。このエフェクトに対するドッジの判定ダイス-2個。同エンゲージ不可。装備中の武器の攻撃力は加算できない。								
アクティブソナー	3	2	メ/リ			知覚		
効果：判定ダイス+LV個。								
リフレックス:ハヌマーン	3	2	リアクション	至近	自身	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ		
効果：@7								
エンジェルヴォイス	3	4	メジャー	視界	単体	自動		
効果：対象が次に行うメジャーアクションのc値を-1(下限値6)し、判定ダイス+LV個。								
異形の守り	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果：BSを受けた直後に使用。BSを１つ回復。暴走は不可。重圧を受けていても使用可。								
擬態の仮面	★							
効果：変身時に使用								
効果：								
効果：								
効果：								

物心ついた時には両親はいなかった。
事故らしい。
僕が生まれて、初めての家族揃っての帰宅の途中。
突っ込んできたトラックと正面衝突し、運転席に乗っていた父と、助手席に乗っていた母は、車体に押し潰され救助された時には亡くなっていた。
後部座席でチャイルドシートに乗っていた僕と、隣に座っていた姉は奇跡的に助かったらしい。

6歳年の離れた姉と二人、父の兄の家で居候していた。
伯父さんと伯母さんは、決して悪い人ではなかった。
よく面倒も見てくれたし、学費も払ってもらった。
保護者として、きちんと育ててくれた。
けれど、昔気質な性格で、姉には女らしく、僕には男らしく過ごすことを望んだ。

「煌君は、体が小さくて女の子みたいだから、心配だね。」

何気なく放たれた伯父と伯母の一言が、小さい頃の僕には辛かった。

僕は可愛いものが好きだった。
決して女性になりたい訳ではないが、ふわふわきらきらしたものを見ると幸せな気持ちになれた。
姉はそんな僕を受け入れてくれて、こっそり可愛いものをくれたりしていた。
公に可愛い格好はできなかったが、筆箱の中に入っている、ちょっと良い匂いがするピンクの消しゴムが、僕の宝物だった。

ある日、いつものように学校の放課後に近くの公園でこっそり宝物を眺めていると、クラスメイトの男の子達に見つかってしまった。